



ストなし春闘で毎年低賃金に抑えこまれている労働者は「お祭り」として楽しむわけにはいかない。(5月1日、千葉県中央メーデー会場)

反動中曾根の改憲-戦争と生活破壊攻撃を許すな！

めだつ 怒りの プラカード

日刊 労働券千葉

84. 5. 7 No. 1633

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電二五三五)六(公衆〇四七二)七二〇七

第55回千葉県中央メーデーに参加

総評・県労連主催の第55回千葉県中央メーデーは五月一日、千葉市・千葉公園において多くの労働者が結集して盛大に開かれました。84春闘のさ中で各団体・各単産がそれぞれ創意工夫をこらしたプラカードをもちより、ぞくぞくと参加し、集会開始時刻には会場からあふれるばかりの労働者が結集しました。同時に県内各地区二十一カ所においても、中央と連動して開催され、中央を合わせて四万人の労働者が参加しました。

四〇〇〇〇人の労働者が参加

メーデー大会は十時より開会され、主催者を代表して挨拶に起った井原議長は「全国一二〇〇カ所三八〇万人の参加と県内では21会場で四万人が結集している。84春闘は全国では三分の二、県内では二六〇組合で妥結か回答があつた。額は一万円前後で四・九%で率にして五%を切らざるを得ない。今後、中小、未組織の労働者に支援と共闘を強め、健保改悪、男女雇用平等法、不公平税制など団結を強めたたかう。四万の仲間と団結と統一を強めるメーデーとしたい」と決意と報告がされました。

メーデーの原点にたちかえろう

今年のメーデーの特徴的な事は、従来のメインスローガンが変わり「働くものの団結で安心して暮せる平和な日本をつくろう」となりました。またサブスローガンでは「下総基地への米空母艦載機の夜間離着陸訓練使用反対」が新たに加わりました。また、特別決議として「メーデーを国民の祝日に」が採択されましたが、これはメーデーにも参加できない労働者に共に参加できる働く者の日の実現にむけたものとして採択されました。今日の政治状況を反映して、反動中曾根内閣による「臨調・行革」攻撃、軍事大国化・改憲に見られるようにアジア朝鮮にむけた侵略戦争政策に対する労働者の怒りがプラカードに描かれているのが目立ちました。その意味ではメーデーは歴史から言っても単に祭典ではなく、今一度労働運動・労働者の原点というものをふり返る必要があるのではないのでしょうか。

千葉県下の各地区メーデーにも参加

木更津支部

木更津支部は地区メーデーに組合員7名で参加、会場である鳥井崎海岸で地区労働者と合流、大会後、鳥井崎から駅前までを折り返し会場に戻ってデモを行いました。

館山支部

館山地区メーデーは、館山市・中央公園において会場あふれんばかりの労働者が結集し、支部からは20名の組合員が参加して、盛大に開かれました。

勝浦支部

大会終了後、デモ行進にうつり、中央公園から市役所を通り、千葉銀行をへて館山ロータリーから日東バス車庫で解散しました。支部組合員は闘う労働者の隊列の最先頭で闘い抜きました。

勝浦支部は、メーデーの会場である大原小体育館で支部組合員28名で参加しました。デモコースは、会場から大原の駅前まで夷隅地区の最先頭で闘い抜きました。

(裏面につづく)

銚子支部

銚子支部も地区メーデーに積極的に参加しました。

佐倉支部

佐倉地区メーデーには支部組合員15名で参加、デモは会場である佐倉城公園から市役所前まで約2Kにわたって行い、解散しました。

成田支部

成田支部は地区メーデーに組合員20名で参加、各団体・単産の労働者多数が参加、大会終了後、栗山公園から成田駅前を通って成田山門前までデモを行い、成田支部は最先頭で闘い抜きました。

＊メーデーの歴史

一九四六年五月一日は敗戦後始めて迎えたメーデーであった。戦前・戦中の弾圧で禁止されてから実に「11年ぶり」で復活したこの日のメーデー中央集会の皇居前には50万人が参加し、労働運動・社会運動も急速に活性化していった。天皇制を護持した支配階級も、GHQ（米占領軍支配）の支えのもとで敗戦の打撃から立ち直らんと必死のまきかえしをはかり、情勢は対決

を日に日に高めていった。

同じ年、この復活第1回メーデーに続いて、5月19日には同じ皇居前に25万人が集まって「飯米獲得人民大会」が、占領軍の銃剣をかまえた警備に抗して闘いとられた。この時、参加者が持っていた「詔書 国体はゴジされたぞ 朕（ちん）はタラフク食ってるぞ ナンジ人民 飢えて死ぬ ギョメイギョジ」というプラカードが「不敬罪」

で起訴されるという弾圧をうけた。これが有名な「食料メーデー」である。翌、20日、マッカーサーの「暴民デモは許さない」の強硬弾圧声明、・・・そして時代は翌年の「2・1ゼネスト」（一九四七年二月一日―中止）への対決へとせりのぼっていく時代であった。

（※「不敬罪」は戦後新憲法のもとで、一九四七年十一月に廃止となった。）

21年
1946

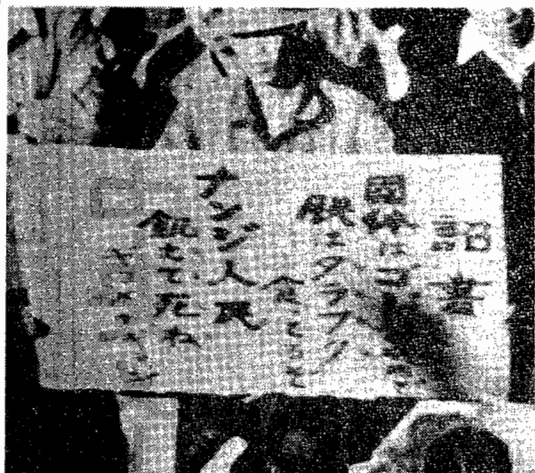
月五百円で暮らす「ないないづくし」

お米がほしい―皇居に押しかけた主婦たち



元日の人向天皇宣言に驚いた国民は、4日のGHQ指令「軍国主義者の公転追放」で二度ビックリ、号外に読みかけた。（上野駅）

長い戦争で疲れはてて迎えた敗戦、生命一つもこたえた国民をまっていたのは、「家なし」「職なし」「米なし」の耐え生活だった。庶民の苦痛の上に、日本資本主義の復興が最優先でおし進められた。飢えた50万、25万人のメーデー集会が、皇居前におしかけた。（写真）右、下は、食糧メーデー。



■昭和21年の出来事

- 1月1日 天皇 人間宣言
- 26日 野坂参三帰国歓迎国民大会
- 2月17日 金融緊急措置令で新円切替え
- 3月3日 物価統制令公布
- 9日 食糧事情悪化で25都市へ転入禁止
- 15日 片岡仁左衛門一家殺し事件
- 16日 婦人民主クラブ結成
- 4月7日 幣原内閣打倒デモに警官発砲
- 10日 第22回総選挙、初の婦人議員誕生
- 22日 幣原重吉内閣総辞職
- 30日 経済同友会設立
- 5月1日 メーデー 11年ぶりに復活
- 19日 東京で食糧メーデー
- 22日 第1次吉田内閣発足
- 6月26日 吉田首相「新憲法第9条は自衛権の発動としての戦争も交戦権も放棄したもの」と衆院で発言
- 6月 東宝 第1回ニューフェイス採用
- 7月12日 読売スト 16日ニューフェイス採用
- 19日 東京26大学高専で自衛隊立学生大会
- 24日 7万5千人解雇をめぐり国鉄争議
- 8月1日 日本労働組合総同盟結成
- 19日 全日本産業別労働組合会議結成
- 20日 連続婦女暴行殺人の小平義雄逮捕
- 9月17日 住友財閥令嬢誘拐で初の公開捜査
- 10月1日 産別系組合の10月闘争はじまる
- 19日 軍需補償打切りの法律公布
- 11月1日 第1回国民体育大会開催
- 3日 日本国憲法公布
- 16日 政府当用漢字新かなづかい告示
- 12月1日 毎日新聞 左横書き 新かなづかいを採用
- 17日 生活権確保の内閣打倒国民大会
- 21日 南海道大地震で死者1330人

資料・写真は、『億人の昭和史』(毎日新聞社)、『家永三郎編・日本の歴史』(ほるぷ出版)によりました。